

**創業43年。時代とともに移転、スタイルを変えながら憩いの店に**  
創業時は旧3号線沿いにレストランとして開業。当時は東郷駅周辺が賑わっていて、赤間駅周辺は今のよう飲食店が多くなかった。東海大学工学部教養部の学生がよく来ていて、学生ランチを提供していた。10年前に現在の場所に移転。「女性が一人でも安心して飲みに来れるお店」としてこだわっている。



人気メニューは山芋鉄板焼。乾き物からご飯物まで様々、毎日食べても飽きないものを提供。「中途半端が丁度いい」とお客さんからは好まれている。

お通しは日替わりで3種類提供。駅周辺はおしゃれなお店も多いので、ここではあえて「おふくろの味」にこだわっている。



# Akama Station area

赤間駅周辺

Theme **駅前酒食**

市内でいま最も栄えているエリアと言える赤間駅周辺。ひと昔前までは東郷駅周辺の方が栄え、シャッター通りとなっていたこのエリアに43年前にあえてお店を開業、宗像の人々の暮らしを「食」を通じて見守ってきた飲食店を運営するママがこのエリアの今昔を伺った。

About  
古代より漁や稲作が盛んで、すぐそばを通る唐津街道は人の往来が絶えなかった。その後、高度経済成長期の流れで、ベッドタウンへと舵を切り、鉄道、国道などのインフラの恩恵もあり、今では人口約10万人の街へと成長。



区画整理前の駅舎北口を西側(上)、東側(下)から見た様子

整理事業はまちづくり協議会や地権者とも話し合いを行っていた(赤間西コミュニティ広報紙第11号より)



キープされたボトルの量がお店の人気を感じさせる



## 創業からずっと見続けてきた街の変化

快速電車で博多駅と小倉駅どちらからも約35分で着く赤間駅。その北口に降り立つと、居酒屋など様々なお店が目につく。車の往来も多く、活気を感じる。その赤間駅周辺も43年前(1979)は喫茶店やカレー屋が駅前にあるくらいで現在のよう賑わいはなかった。南口側に関してはほとんどが田んぼだったと、その年にレストランを開業した鈴木陽子さんは語る。

1961年に赤間駅が営業開始してから旅館や映画館、キャバレーなどで、とても栄えていた。しかしその後、日の里団地など大規模な住宅エリアが東郷駅周辺にできた事で人の流れが変わった。

## 親子3代で訪れる店

それから大きな転機となったのが2012年の赤間駅北口周辺の区画整備事業。いまのロータリーができ、そこから今年で10年。いまの赤間駅周辺の賑わいへと成長していった。

取材させていただいたお店は10年前にいまの場所に移転。レストランから居酒屋へとスタイルを変えた。お店のコンセプトは「おふくろの味」。華やかな外食らしさではなく毎日食べても飽きないものを提供している。お腹を空かして来るお客さんや、一人でじっくり飲みに来るお客さんなどの声に添えていくうちに、いまでは乾き物から食事メニューまで幅広く揃えている。家庭でつくるには手間がかかる煮物なども食べられる。30年以上通ってくれる常連が、いまではその息子や娘が子供を連れて来てくれるなど、赤間駅周辺に住む親子3代からの憩いの場になっている。

## 様々な催しで賑わっていた赤間駅前

創業した当時からある花田酒屋や駅前ホテル周辺が当時はメインストリートだった。いまはロータリーとなった場所。昔はまつりなど催しが行われていた。大道芸まつりが行われていた時は駅近くの土穴地区だけでなく、南郷地区など数カ所で開催され、それをまわるシャトルバスが出ていた。赤間西小学校ができた頃は、運動会が地域行事のような雰囲気、大人も多く参加して行われていた。とママは思い出しながら当時のことを色々と話してくれた。

地域の胃袋を満たし続け、街と共に生き、地域になくはないお店。食の場を通じて皆さんにもぜひディープな宗像を知って頂きたい。